

(別紙 1)

整備計画コンセプト

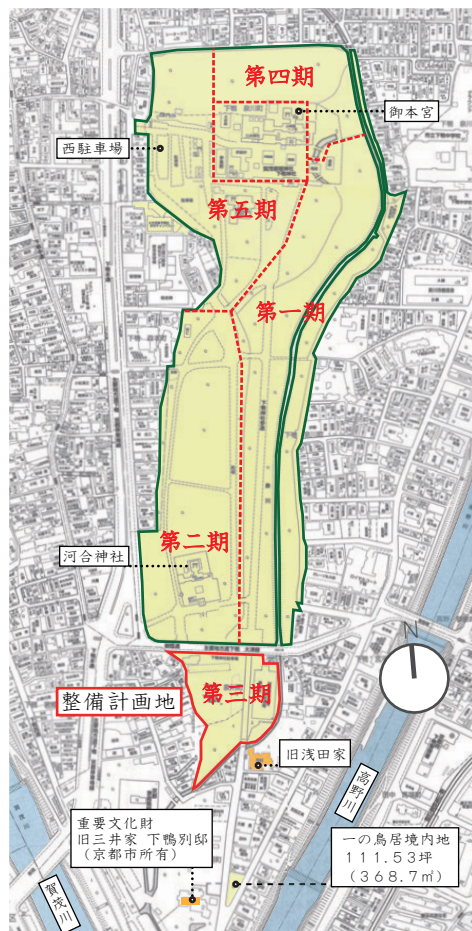
森と樹木の景観保全『世界遺産バッファーズーンの整備』－「京都市鴨川風致地区保全計画」－

賀茂川と高野川の合流点から見晴らせる森の景観を損なうことなく、連続として続くように、森と樹木の保存を第一に考えます。御蔭通り沿い及び参道沿いについては、既存樹木（高木）をできるだけ残します。

樹木が生い茂り荒れた状態の樹木を整理したのちに、糺の森の後継樹であるニレ科樹木を植栽し、世界遺産下鴨神社の杜叢林として、世界遺産の一体化を図ります。



環境整備後 鳥瞰パース



凡例

- 世界遺産区域
- 世界遺産区域外



現況写真

本事業の概要説明	
対象地	左京区下鴨泉川町 60 番
敷地面積	約 9,647 ㎡ (実測)
事業者	賀茂プロパティーズワン合同会社
設計施工者	株式会社 竹中工務店
事業スケジュール	着工 平成 27 年 11 月 (予定)
	竣工 平成 29 年 2 月 (予定)
建物規模	地上 3 階建て (鉄筋コンクリート造)
	集合住宅 - 107 戸 (予定)

※関係諸官庁との協議により計画に変更が生じる場合があります。

(別紙 2)

□参道の景観保全 ― 糺の森へ続く空間における緑の保全 ―

参道の連続性を保つ工夫として、参道部分を拡張し、広々とした空間確保を目指します。参道部分の路面については、現状のアスファルト舗装から石畳風舗装に変更致します。また、周囲は砂利敷きとし、和風の印象空間と致します。



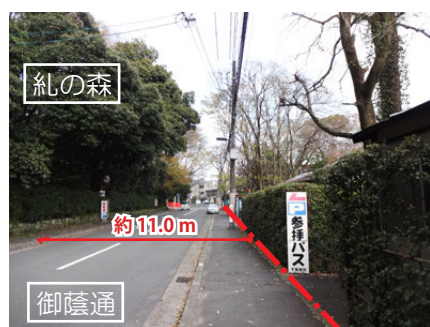
現況写真（表参道）



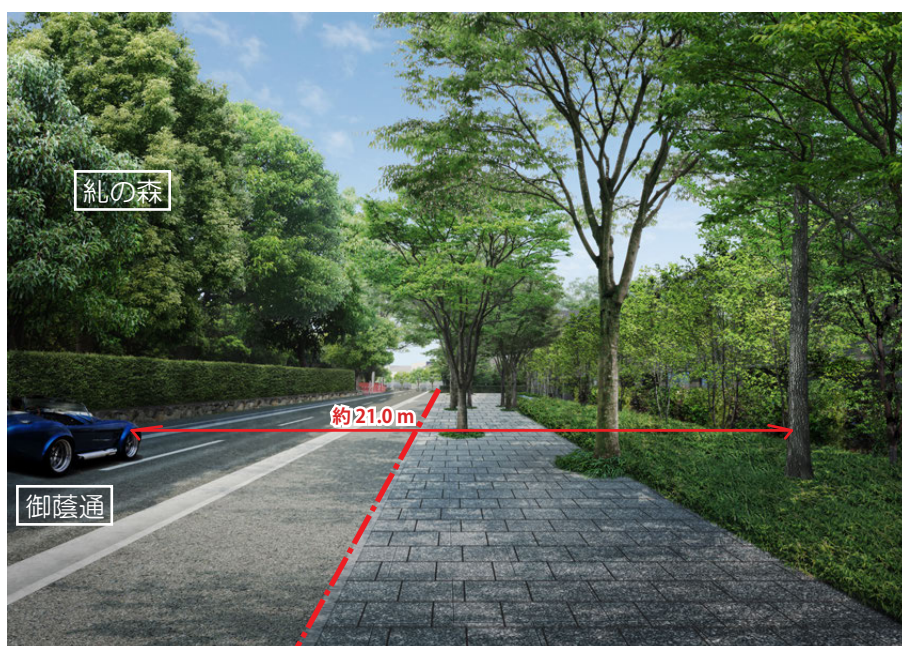
環境整備後イメージパース（表参道）

□御蔭通沿いの環境保全と植樹 ― 空地の拡張 ―

御蔭通りから約 10 m の離隔距離を敷地内で確保することによって、世界遺産区域からは、【バッファゾーン】として御蔭通りの幅員を含め、約 21 m の距離を確保します。参拝者の歩行空間としての美観整備を行うとともに、御蔭通側の既存樹木をできるだけ保存する計画とします。



現況写真（御蔭通）



環境整備後イメージパース（御蔭通）

(別紙3)

□失った社家町の景観保全

研修道場の南側（泉川南面）の旧浅田家（鴨社公文所絵所預）社家屋敷は、近年になって取り壊しの危機となったため、神社側が古い遺構を残す前面部分約100坪を取得致しました。本整備計画では、社家屋敷の保存と併せて周囲の景観を整備致します。



現況写真（計画地南側参道）



環境整備後イメージパース（計画地南側参道）

□旧浅田家



現存する社家屋敷（旧浅田家）の門構え



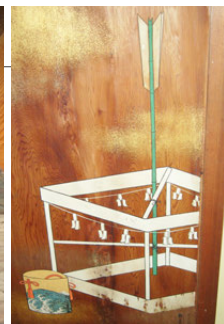
旧大絵図（江戸期）



古い遺構を残す玄関口



下鴨神社の御神紋である二葉葵が彫られた墓股



社家屋敷内の板戸絵の一部

(別紙4)

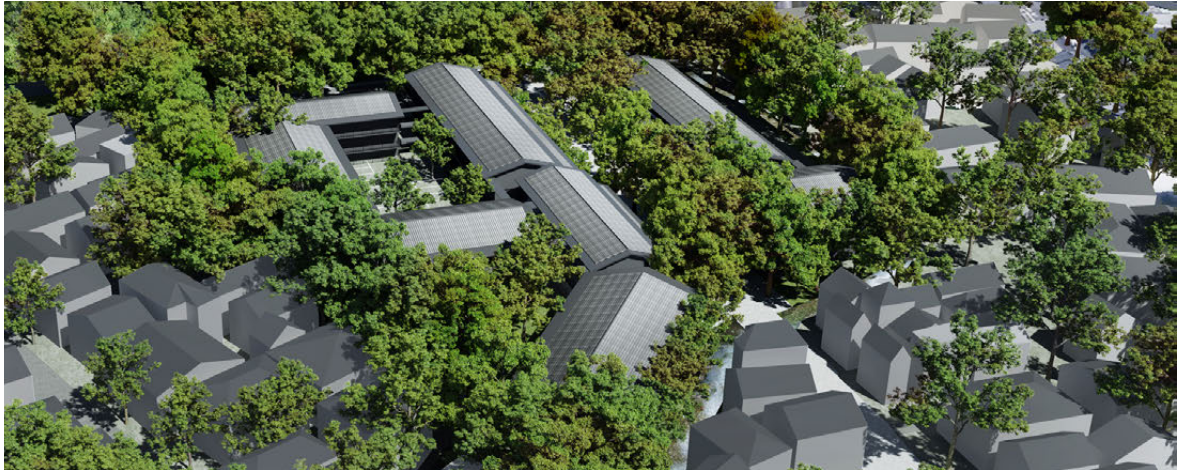
□ 糺の森に佇み、将来の下鴨神社を支える住まい（和風集合住宅）の整備

建物は、表参道および御蔭通りからセットバックした位置に配置し、参拝者にとって開放的で安全な歩行空間を確保します。

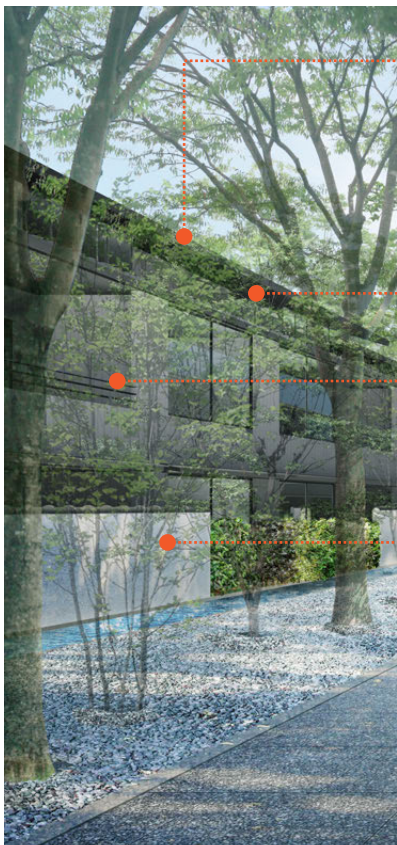
ー 建物と樹木が共存する分棟配置ー

本計画における樹木保存にあたり、桂離宮や二条城二の丸御殿といった京都を代表する建物を参照し、本計画では建物を分棟配置とし、世界遺産のバッファーズゾーンとしての豊かな外部空間の創出を試みております。

本計画における分棟配置を示す鳥瞰パース



ー「京都市下鴨神社周辺特別修景地域」の建物計画ー

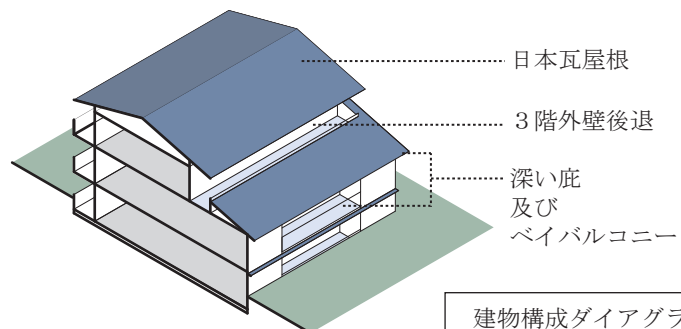


日本瓦葺等の屋根勾配による
社家屋敷及び和風住宅の外観にて
参道の景観を保全を図ります

参道及び御蔭通り沿いにおいては
3階部分の外壁を十分に後退することで
参拝者への圧迫感を低減させます

深い庇、ベイバルコニーにより立体的で陰影のある壁面構成とし、
単調で画一的ではない平面計画とすることで、
周辺に植栽する樹林との連続を図ります

塀と生垣により社叢の緑と呼応した柔らかな
境界を建物と参道の間に形成し、
一の鳥居からの参道景観の連続性に配慮します



建物構成ダイアグラム